

教室の窓から

継続は力なり

昨年八月から十一月まで四か月間、競書誌の中学二年生と三年生の硬筆作品の審査当番でした。前期昇級試験を受けた直後の審査でした。三年生の特待生が七十八名、次回の昇級試験で特待生になるであろう方が約三十名と、百名を超すたくさんのお品がありました。

袋を開いた瞬間、すばらしい！すごい！さすが中学三年生！どの作品も、長い間の積み重ねがはつきりとわかる作品ばかりでした。まず中学三年生まで頑張り続けたことが素晴らしいと思います。大人でも書けないような上手な作品ばかりです。きっと家族の中で一番上手でしょう。大人になっても困ることはないでしょうし、将来周りの人から認められ、大切な仕事を頼まれることもあるでしょう。

指先でポンと押せば何でもできる時代になりました。手や腕、そして心で文字を書くことが少なくなっています。でも、いつの時代になっても絶対に自分の力で書かなければなら

ない時がたくさんあります。履歴書、自筆のサイン、芳名帳など。そして何より、はがきや手紙文として丁寧に書かれた心のこもった手書き文字は、人の心に響きます。

私は競書誌の特待生紹介コーナー(P39)を読むことが大好きです。「くじけそうな時もあったが続けて良かった」「集中力が続いた」「文字を書くことが好きになった」「一生の宝物を手に入れた」など、誌上の顔写真に最後まで頑張った達成感が重なります。そして文中に必ず書かれていることがあります。感謝の言葉です。「続けてこられたのは、先生、家族、仲間、周りの方々のおかげです」と。大事なことですね。

皆さんにお伝えしたいことがあります。書道は決して楽な道のりではありません。思うように上達しない時期もあるでしょう。他のことで忙しくなると、練習時間が取れない時もあるかもしれません。でも、そんな時こそ「継続は力なり」という言葉を思い出してください。

理事 山崎五月(皐月)

小学生の皆さんは、中学生になると部活動や勉強で忙しくなります。中学生の皆さんも、受験勉強が本格的になってきます。そんな中でも、週に一回、月に数回でも構いません。筆を持つ時間を大切にしてほしいのです。なぜなら、書道で培われる集中力や丁寧さ、美しいものを見る極める力は、勉強にも、将来の仕事にも、人生のあらゆる場面で必ず役に立つからです。

そして何より、継続することで得られる自信は、皆さんの大きな財産になります。「私は最後までやり遂げることが出来る人間だ」という自信です。これは書道だけでなく、これから出会うすべてのことに挑戦する力となるでしょう。

今日この文章を読んでもくれた皆さんが、中学三年生になった時、「続けてきて本当に良かった」と心から思える日が来ることを、私は信じています。一緒に頑張りましょう。